

佳作

ボタン一つで変えたい未来
福島県郡山市立宮城中学校
2年 伊藤 樹生

プログラマー。それは才能が認められ、ゲーマーの極一部の人だけがなれる職業だ。僕はこのプログラマーに憧れている。

きっかけは、とある選手をテレビで観たことだ。その人の名は、梅原大吾さんだ。日本人初のプログラマーであり、現在は「ウメハラ」というプレイヤーネームで活動しており、今年の夏、アメリカで行われた世界大会では、5位という結果を残した。いまだ人気も高く、「生きる伝説」とも呼ばれている。彼に憧れを抱いた理由は「美しい人生観だな。」と思ったからだ。壁にぶち当たりながらも、努力を続け、結果につなげるといった人生を何十年も続けている彼をととても尊敬した。僕はその生き方を真似し、たくさんのことを努力した。生徒会や学級では、人一倍努力をする姿勢を見せ、陸上やバレーなどの部活動でも、できるだけ弱音を吐かず、一生懸命練習に取り組んだ。感じたことは、この生き方を何カ月、何年も続けるというのは難しいということだ。しかし彼は、これを持続したからこそ、自分の人生を変えることができたのではないかと思う。

僕も彼と同じように、ほぼ毎日ゲームをしている。僕たちのような一般人は、ゲームを「楽しむ」という感覚でやっている。ウメハラさんのようにプロになると、ゲームは「お金を稼ぐための仕事」になっている。その域に達するのにどうしたら良いか考えた。たどり着いたのはやはり、努力が必要ということだ。僕はプログラマーになるための努力をした。例えば、反射神経の訓練やゲームでのトレーニングなど、中学生から始めることによって、将来のためにつながると思う。その成果か、何カ月か前よりも対戦で勝てるようになった。一つの成長とも言えると思う。それから、僕も少しずつゲームは娯楽というレベルを超えられるようになったと思う。そのレベルを少しずつ上げ、プログラマーに近づいていきたい。

ある日僕は、会社に就職し働いている兄に「プログラマーを目指している」ということを話した。すると、兄はこんな言葉を口にした。「ゲームは楽しんでやるから良い。プロになってしまうと楽しむ余裕がない。」と。僕はちゃんと現実を見せられた。自分の考えと逆だった。働かないといけない年齢になると現実を見て、ちゃんとお金を稼ぐことのできる職業に就かないといけないと感じた。自分より長く生きている人間の言葉はととても重く、心に響いた。しかし、僕たちに夢を見せてくれるプログラマーの人たちに憧れ、近づきたいという気

持ちは抑えきれない。自分の好きな物事を仕事にしたい。現実を見せられ、たくさんの挫折があったとしても夢を見たい。そのために僕はこれからも将来につなげるための努力を続けていきたい。

さて、10年後の自分は何をしているのだろうか。夢をかなえているのか、他の道へ進んでいるのか。僕は、夢をかなえ、今の道を進み、楽しく生活していると思う。理由は、今の僕が頑張ろうとしている熱意や姿勢を生活に出しているからだ。また、たとえ壁にぶつかっても、立ち上がれる覚悟を持っているからだ。僕は一つの道を進んだら、戻って来られないと思っている。だから、大人になるまでの時間に、理想と現実を比較しながら過ごしていきたい。

もし、プロゲーマーになることができたなら、やりたいことは二つある。一つ目は、ウメハラさんと一緒に仕事したり、良好な関係を築けたりするような人間になりたい。そして、自分の実力を認めてもらいたい。また、大会で優勝するなど、結果を残したい。二つ目は、ゲームを通じて、ゲームの素晴らしさを伝えたい。現在、世界中でオンラインゲームでのトラブルが起こっている。すると、ゲームというものが、悪いイメージになってしまう。それを止めるためにも、プロのゲーマーが動き「ゲームの楽しさや良さを認識させたい。」と思う。全てはゲーマーの生きる世界をよりよくするために。

最後に、ゲームの世界へと導いてくれたウメハラさんには、とても感謝している。10年後、もし共に活動しているなら、未来の自分はウメハラさんに感謝の気持ちを伝えてほしい。彼が居たからこそ、今の自分があり、これからの自分があると思う。また、10年、20年育ててくれた両親にも感謝してほしい。ゲームのボタン一つで人生を変えるのは難しい。しかし、目標に向かってゲームをしたり、観戦したり、愛したりしていきたい。それは、自分や周りの人だけでなく、僕たちよりももっと次の世代につなげるためにも。この頃、人気の高まってきたゲームの世界に飛び込み、たくさんの経験を積んで、人生の糧としていきたい。まずは今の自分が頑張っていこうと思う。